

令和 4 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0393100219		
法人名	株式会社 海山会		
事業所名	グループホーム ほほえみ すずらんユニット		
所在地	〒028-7911 岩手県九戸郡洋野町種市第41地割15-2		
自己評価作成日	令和4年9月1日	評価結果市町村受理日	令和4年12月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念と、年度末に自分たちで決めた介護目標を毎朝の申し送り時に復唱し、自分たちで考え実践できるようにしています。また、利用者様の身体レベルの低下もあり、日常生活の援助に時間がかかるようになってきましたが、毎日の体操やレクリエーションを行い、体を動かしたり、歌を歌うなどして残存機能の維持を行っています。最近ではコロナ禍になり、ご家族との面会が出来ない期間が長くなっていますが、感染予防を行い短時間の面会や窓越しの面会を行うなどして、ご家族との繋がりが切れないように支援しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、地域の中心部に位置し、施設に隣接して消防団屯所がある。敷地内には、同法人の小規模多機能ホームが併設され、夏祭りやハロウィンなどの共同開催や看護師の助言など、施設の機能を活かしながら協力、支援し合い、一段と充実した介護サービスを提供している。運営にあたっては、グループホームの理念の下、職員で定めた年度目標を共有し、管理者と職員がコミュニケーションを図りながら、利用者の意向や家族の要望等を聴き取り、お手伝いなどの生きがい対策や面会の柔軟な対応を行っている。また、運営推進会議の提案を受けて、会議資料の充実やコロナ禍の対策などに活かし、職員会議や各委員会の協議、個人面談による要望や提言を受け、小規模のドライブやお祭りの開催など、業務の改善等に反映させている。さらに、医療との連携を図り、訪問診療や看護師の指導・助言を得て、施設内での看取りを行うとともに、終末期の介護やメンタルケアの研修会を開催し、職員の知識と技術のレベルアップを進め、より良い介護サービスの提供に努めている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年11月18日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の申し送り等で理念を復唱している。また職員会議等で職員がどのように解釈しているか確認している。	グループホームの理念のもと、職員で話し合っ年度目標をたて、職員会議等で定期的に振り返ることで、職員の理解が深まり、利用者一人一人の物の見方や意向の把握がよりの確になり、体操やレク活動を含めた介護の充実が図られている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍である為、大きな行事等は行っていないが、隣接している小規模と合同で夏まつりを開催した。その際、少人数ではあるも地区の婦人会にも参加していただいた。	小学校行事などに出向く交流は中止しているが、小規模多機能ホームと共催の夏祭りには、地区婦人会の方々の参加をいただいた。日頃から家族や地域の方々から野菜などの差入れを頂いたり、散歩途中で声を掛けていただくなど、コロナ禍にあっても、地域に溶け込んだ運営が継続されている。	コロナ禍の動向を見極めたうえで、これまで実施してきた地域行事への参加やボランティアの受入れなど、地域との交流や活動の再開や推進を期待します。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議の中で認知症について話をしたり、今年度は認知症カフェの開催も予定している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で開催できないときは、資料とアンケート用紙を配布し、委員や地域の方の意見が反映できるようにしている。	10月から対面で運営推進会議を開催できるようになった。委員に会議の開催時期や内容等についてアンケートを依頼したところ、お二人から回答が寄せられ、「認知症高齢者の日常生活自立度」が分かるような資料提供の提案があり、資料として利用実績に追加している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	日ごろから、情報共有を密に行い、町主催の研修等にも積極的に参加している。	家族からの希望に沿って要介護認定申請の事務を代行し、地域包括支援センターからは、困難事例や他の事業所での受け入れが難しい方の紹介が多い。事業所としても、職員が地域に出向き「百歳体操」を行ったり、認知症カフェなどの町の事業にも取り組んでいる。	

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の職員会議を通じて身体拘束等の具体的な事例や行為について再確認、検討し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、毎月身体拘束委員会で会議を行い、見直しを実施している。	管理者、看護師、職員の5名での委員会を3か月ごとに開催し、拘束の現状、今後の対策などを協議し、結果を職員に周知している。年1回研修会を開催し、身体拘束防止の趣旨を徹底している。家族の了承を得て暴力を振るう利用者1名に、必要に応じてミトンを装着している。施錠は夜間の玄関のみで、転倒予防のため2名がセンサーマットを使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議などを通じて身体拘束や虐待の具体的な事例や行為について再確認、検討しながら虐待防止のケアに努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部講師を招いて研修を行ったり、制度を利用する際は、関係者と相談をしながら行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に理念、サービス内容、個人情報の取り扱い等の説明を行い、出来るだけ分かりやすい説明を心がけている。また改正時は口頭と文面での説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や職員会議で意見等を伝え、都度検討を行っている。	体調の変化や通院結果等、その都度、電話や口頭で伝えてはいるが、家族からは面会に対する要望が多い。コロナ禍での面会制限で家族と疎遠にならない対策として、広報紙等の定期的な発行を検討しているが、実現に至っていない。管理者は、ご家族が来所された際に行事等の写真にメモを添え、近況等を伝えていきたいとしている。	

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や、日々の業務の中で相談しやすい環境作りを心がけており、職員一人ひとりの意見やアイデアを取り入れて運営に反映させている。	職員会議や個人面談により、提案や要望を受け、ハロウィン、おやつバイキング、紅葉ドライブなど、行事開催や業務改善に繋げている。資格取得の要望には、研修参加費などを支援して職員のレベルアップを図っている。リーダー、管理者が職員と面談を行い、個人の目標の取組み状況や業務内容、今後の課題等について確認し、併せて、個人的な要望も聴き取っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務日数や時間、希望休等は出来るだけ希望に添えるように対応している。また、年に1回の昇給やXmas、誕生日には、ささやかであるもプレゼントを渡している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	個人研修計画をたて、自己学習する機会をもうけたり、資格取得に向けた資金の援助を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型協会への加入や、包括支援センター主催の研修会等へ参加を促している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用者様やご家族様に事前に見学に来て頂いたり、利用前には必ず担当ケアマネから情報収集を行い、安心してサービスが利用できるように支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前の調査等で金銭的な部分も含めたご家族様の困りごとを確認し、不安なく利用してもらえるようにしている。		

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況により、他のサービスを検討するなどし、ご利用者様やご家族様の状況に合わせたサービス利用が出来るようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の方に食器拭きや洗濯物たたみなどを手伝って頂き、ご利用者様と職員はもちろん、ご利用者様同士もコミュニケーションを取って頂きながらお互い協力し生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	コロナ禍にて以前のように面会が出来ない為、特変が無くてもこまめに連絡をし、状態等の報告をするなど連携を取り、良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ感染拡大予防の為、アクリル板越しでの面会対応となっているが、可能な限りご家族様やご親類様等と面会できるように対応している。	コロナ禍以前から家族以外で面会に訪れる方は少なく、家族は、母の日や敬老の日などのプレゼントや記念品、おやつや家族の写真などを届けていただいている。嗜好品の希望があれば買い物の代行をし、おもちゃ豆ストグ、おはぎなどで昔を懐かしんでいる。時にはドライブで自宅周辺を巡ったりしている。長年の馴染みの地元の理美容師が2ヵ月に1回来所している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレク活動でご利用者様同士が会話できる機会を作っている。会話が困難なご利用者様に対しては職員が声がけをし、関わりが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後や入院中は、関係者やご家族様に状況の確認等の情報交換は密にし、解約したご家族様からの相談やフォローも受けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	コロナ感染症対策で面会や外出等制限されていたが、毎日の関わりの中から声かけし把握に努め、ご利用者様本位のケアができるように努めている。	折り紙や歌、ちぎり絵など、レクの内容を示しながら利用者の希望を確認している。洗濯物たたみ、茶わん拭きなどのお手伝いを適宜お願いしたり、菜園の野菜等の収穫などの手伝いに参加される方もいる。	

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご利用者様やご家族様の方と話し合い確認しながら必要性を感じる物、思い入れの深い物等は持ってきていただき、居室に配置したりし状況に応じて配置転換する等努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様の身体状況や生活リズムを理解しご利用者様の行動や言動、表情から現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心に、ケアプランを立てる際にはご家族様の方、居室担当、看護師や他職員の意見を聞きながら、経過や現状を再確認しつつ、ご家族様やご利用者様の意向や要望を取り入れてケアプランを作成している。	短期6か月、長期1年で、半年ごとに計画の見直しを行っている。ケアマネが家族の意向を聴き取り、居室担当がアセスメントを行い、職員のカンフレンスを経て、ケアマネがモニタリングを行って計画を作成している。看護師の助言のほか、投薬の変更など、医師の指示も計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づいた点は個別記録に記入している。また、休み等でいなかった職員にもわかりやすいように各棟、用途別、ご利用者様の状況と分けて記録記入を行い、職員全員で情報共有しプランの見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の方々と連絡を取り、報告やニーズを伺いながら現状の把握に努め、情報共有しながら一人ひとりに合った柔軟なサービスが提供できるよう取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現状自粛しているが以前は地域の方々、関係機関と協力しながら支援に努めている。また、感染拡大防止に努めながら行事等を行い楽しんでいただけの機会を作っている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診は入居者様及びご家族様の希望を組んでいる。他のかかりつけ医を希望される場合は、他の医療機関と連帯を図り、適切な医療が受けられるように支援している。	入居前からのかかりつけ医は、種市病院3名、八戸病院1名で、他は入居後に協力医に変更している。訪問診療が1名で、家族付き添いが3名、他は家族の要請で職員が付き添っている。投薬変更など、医師の指示で職員が付き添う場合もある。コロナ禍のワクチン接種は協力医が行ない、年齢別による特別検診は家族が対応している。歯科は訪問診療を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護時や特変等があった時は随時、情報共有を行い指示を受けたり、相談を行い、適切な医療を受けれるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医療機関との情報交換を行い、ご利用者様及びご家族様が安心して入院治療が受けられるよう支援し、退院後の生活での注意する点等の情報を得たり、相談をするよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階からご利用者様及びご家族様の意向を確認し、状態の変化に伴い再度治療方針等について話し合いを行い、事業所でできる事を支援している。必要な場合は、地域の関係者と連携して支援している。	施設内での看取り経験があり、終末期のケアについての研修を行い、職員のメンタル面のフォローにも努め、重度化した場合の体制を整えている。訪問診療の医師や看護師の指示・指導も受けている。家族待機用の居室も用意している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年は救急隊員による急救命講習を受けていたが、コロナ禍により職員のみで年2回の避難訓練を実施し、急変時や心肺蘇生法の講習を全職員で行った。		

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時マニュアルの作成や年2回の避難訓練時にも発電機の使用方法等の確認をしている。地域協力隊も発足しているも、コロナ禍により、職員のみで行っている。	町のハザードマップで指定区域に入っておらず、事業所がある角浜小学校跡地は地区の避難場所になっている。入口に消防団の屯所があり、地域協力隊(13名)として委嘱している。運営推進会議委員お願いしている元消防団員の委員からは、災害対策の助言を得ている。小規模多機能ホームと共同で消防訓練を実施し、年2回のうち1回は夜間想定訓練とした。1週間分の食材、発電機、ガスコンロ、反射式ストーブを確保している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室の清掃や整理整頓に努め、話しかける際は「○○さん」と呼び、ゆっくり丁寧に話す他、ご利用者の行動や会話に対してスピーチロックにならないように心がけている。	個人情報書類で作成し、キャビネットに保管している。個人の心情や個性を大切に、話しかけの方法などについて、職員会議や申し送りなどで協議、検討し、日々の介護サービスに繋げている。入浴、排せつ介助等で同性介助を希望する場合には、男性職員が勤務する夜勤帯を除き、希望に沿っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	食事や入浴、口腔ケア、トイレ、レク活動等において、ご利用者様への声かけもあえて方言を使用し分かりやすく話し、反応や行動をしっかりと観察し、ご利用者様の意思が反映できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、臥床時や食事、テレビ鑑賞や入浴等においてはご利用者様の意向や表情等を確認し、ご利用者様のペースに合わせた対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりの整容をしっかりと行う他、発汗や汚れた衣類の更衣、季節や気候に合った服装、外出時はご利用者様の気に入っている服装を優先的に着て頂くようにしている。		

令和 4 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事ではニュースや思い出等話をしたり、自力摂取がしやすいように食事形態や食器等を状態に応じて工夫している。一部のご利用者様だけではあるが食器拭きにも積極的に協力されている。	朝食は冷凍食品を活用し、昼食、夜食は、食材を地元スーパーで購入し、調理専門員が調理している。家族や地域の方から食材の差し入れを頂いたり、利用者には、希望の多い郷土料理やおやつ作りのお手伝いをお願いしている。おやつは、既製品のほか、ホットケーキ、たこやき、パイキング等を手作りで提供している。節句や誕生日などには、希望メニュー、手作りケーキなどを提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスや摂取量はもちろん、常にご利用者様の状態を把握し、残存機能を保てるように自力摂取しやすい器やコップを検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりのペースに合わせて声をかけ、洗浄を行って頂き見守りながら一部介助したりし義歯に破損がないか確認し行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	居室担当や排泄委員会を中心に、量やパターンを検討し、トイレ誘導やご利用者様に適したオムツカバーやパットの検討をしている。	排泄チェック表に沿って動向を把握し、仕草、様子を見て案内、誘導している。自立者はなく、見守り、ズボンの上げ下げ、拭きなどの介助を行っている。オムツ使用は15名で、他者はリハビリパンツにパットを併用している。失禁やロウベンの利用者には、清拭、シャワーなど、羞恥心に配慮して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事時の水分摂取だけでなく臥床、体操後等時間にとらわれず適宜水分摂取していただき、あまり下剤に頼らないようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	浴室内があまり暑くならないよう入口ドアに暖簾を取り付けたり、季節に応じた工夫をするなど、入浴を快適な時間にするよう配慮しつつ、安全に入浴していただいている。	1人週2回午前中に入浴している。12名が機械浴(特殊浴)を利用している。介助1名、着替え1名の2名の職員で対応している。入浴剤のほか、季節に応じ柚子湯、リンゴ湯、菖蒲湯を提供している。利用者は昔話や自慢話でくつろぎ、職員とのコミュニケーションの時間となっている。	

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご利用者様一人ひとりに合った室温調整や、室内灯の明るさ調整を職員間で情報共有、把握し夜間快適に睡眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の際にはその場にいる職員全員で確認し最後に服薬させる責任を持ち、誤薬を起こさないように努めている。また、残薬表にて残薬を把握し、受診や往診を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご利用者様の好み等を把握し、レクに取り入れたり、食器拭きや洗濯物たたみと一緒にするなど、無理なく楽しみながら残存機能を維持していただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ渦にて、ドライブ等の外出行事はあまりできず室内で楽しんでいただく行事がメインとなっているが、状況に応じた対応を心がけ天気の良い日は事業所の周りを散策するなど、ご利用者様の気分転換をしている。	天気の良い日は外気浴や、施設近隣を散策したり、職員自宅の花畑を見に出掛け、地域の方から声掛けされたりしている。少人数のグループで周辺の観光地、景勝地などに出掛けている。不穏時や帰宅願望がある方には、気分転換にドライブで対応する場合もある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理同意書を作成し、承諾を得てから事業所側でお金をお預かりしている。毎月、購入したものの領収書等をご家族様に渡している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	コロナ渦にて面会が難しい為、ご家族様に現状報告を含めた電話連絡をこまめに行い、希望時には、ご利用者様と電話でお話をさせていただいている。		

事業所名 : グループホーム ほほえみ すずらんユニット

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	レク活動で作成した季節の折り紙等を飾り付け、四季を意識して頂けるようにしている。また、共用スペースと居室との温度や明るさの差がないようにしている。	室温や空調は、エアコン、消毒機能を有する空気清浄機で適正に管理されている。広々としたロビーは、天窓や大型の引き戸により、明るく、白とピンクを基調した壁には、利用者の作品や、季節の飾り(クリスマス)で飾られ、利用者は、ソファ、食卓用テーブルで、お手伝いや趣味、テレビなどで寛いでいる。簡易ベッドもあり、予め緊急時の配慮もしている。廊下には行事の写真、玄関には造花の鉢、リースが飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブルや椅子の配置替えし、レク活動や体操時に動きやすい様に毎日工夫して行っている。また、職員が間に入って地元発行の新聞等で会話を促し、ご利用者様同士でも会話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室担当を中心に、馴染みの品物や、レク活動等で職員と一緒に作成したものなどを、ご家族様の方に確認提示、配置している。	室温等は、エアコン、加湿器で管理され、ベッド、チェスト、クローゼットが備え付けられている。テレビ、筆筒、衣装ケース、時計、家族写真、アルバム、孫からプレゼントされたぬいぐるみなど、馴染みの物が置かれており、居心地の良い環境となっている。ポケベル対応のナースコールを1名に配置している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっているので転倒リスク軽減の為に、動線をふさがないようにしている。また、居室や廊下には手すりが付いており、安全な歩行や自立した生活が送れる様に支援している。		